

## 発刊にあたって

淑徳大学学長 長谷川 匡俊

前年度末に発生した東日本大震災の影響は大きく、入学予定者並びに保護者・ご家族の皆様には申し訳ない結果となりましたが、本年度は4月1日に予定されていた合同入学式を中止せざるを得ませんでした。この苦渋の決断を、その後の教育にどれだけ生かし得たかが問われる1年でもありました。

私は、この大震災としっかり向き合うことこそ本学の務め、『今この時、学祖いませば』との思いを自らに問い、被災地に寄り添う息の長い支援を掲げて、全教職員（千葉キャンパス）に訴えることからスタートを切りました。建学の精神とは、説いて語って終わるべきものではなく、大学歌に「行学一致晏如たり」とあるように、行動に移してこそ意味を持つものとなります。

発災からおよそ50日後、大学として石巻市雄勝町の被災地に入るまでの経過を振り返ると、「東日本大震災支援ボランティアセンター」は立ち上げたものの、学内足下の諸課題に追われ、迅速に行動できなかったことは今後に向けての反省材料となります。そうしたなかで、東北各地の卒業生有志をはじめ、実に多くの方がたのご支援ご協力によって、この1年間、被災地とのつながりを大切にしながら活動を継続できたことに感謝したいと思います。特筆すべきは、参加した学生諸君が、それぞれのフィールドで激しく心を揺さぶられながら、さまざまな出会いを通じて未知の世界を体験し、人間的にも大きく成長を遂げつつあることです。

つぎに、当該年度に取り組んだ新規事業のうち、今後の本学の展開を考える上で重要な意味を持つ三つの事業について触れておきたいと思います。第一は、前年度から準備を進めてきた栄養学科（管理栄養士養成、入定80名）の設置申請を行い認可を得たことです。本事業は、戦後いち早く開設され、長い伝統を誇る淑徳短期大学・食物栄養学科（募集停止）の発展的継承であって、千葉第二キャンパス・看護学部を増設し、看護栄養学部として次年度から発足いたします。「福祉の淑徳」の強みがさらに高まることを期待します。

第二は、埼玉みずほ台キャンパスの国際コミュニケーション学部改編計画の一環として、経営コミュニケーション学科をベースに、経営学部（経営学科〈110名〉、観光経営学科〈90名〉）を新設しようとするもので、届出設置が認可されました。利他共生のマインドをもって地域産業の活性化に寄与するグローバルな人材の育成を目指します。

第三は、平成25年度以降に向けた国際コミュニケーション学部の第2期改編計画であり、同学部人間環境学科・こども教育専攻の入り口と出口の実績を踏まえ、教育学部・こども教育学科（100名）の設置を掲げ、計画の実施準備に入りました。これまでの小学校教諭・幼稚園教諭に加えて、保育士の養成を組み込みたいと考えています。

むすびに、本年報の執筆と編集に当たられた各位に謝意を表して、ご挨拶といたします。

2013（平成25）年3月